

公園内で見られる植物他

写真は11月7日(土)
自然観察会で見られた
植物です



フユイチゴ (バラ科)

名前の由来は冬に実が熟することからきています。実は甘さよりも酸っぱさの方が強いように思います。中の種が少し残ります。ツル性で茎に刺のあるものと無いものがあるので、実を取る時には注意！



ゲンノショウコ (フウロソウ科)

下痢止めの民間薬としてドクダミやセンブリと共に有名で、「実際に効くのが証拠である」という意味からきているようです。口にするととっても苦い(良薬口に苦し)。種子を一個ずつ巻き上げる形が「みこし」の屋根に似ていることから「御輿草(みこしぐさ)」とか、優秀な整腸生薬であることから、イシャイラズ(医者いらず)、タチマチグサ(たちまち草)の異名を持っています。



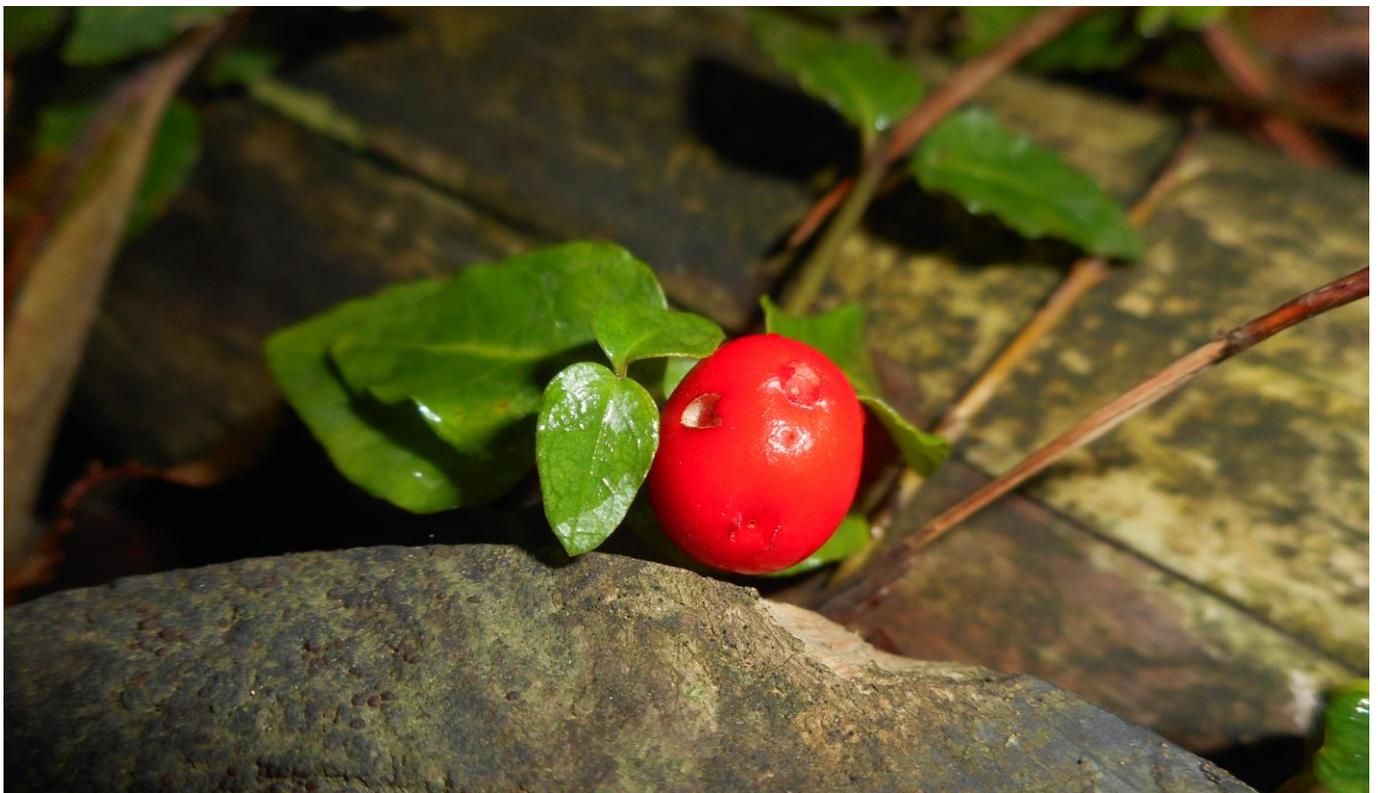
アキノキリンソウ (キク科)

別名「アワダチソウ」と言い、花が泡立つように咲くという意味からきています。黄色の花がよく目立ちます。以前は土手に普通に咲いていたようですが、近年は良く見ると殆どがセイタカアワダチソウのようです。



カマツカ (バラ科)

枝が強靱で硬く折れにくいことから、鎌の柄に使われる事が多くこの名が付いたようです。別名「ウシコロシ」は牛の角を枝の間に入れると抜くことができないほど強い木だという事からきています。



ツルアリドオシ (アカネ科)

ツル性でアリドオシの赤い実に似た実を付けるところからこの名が付いたようです。ヤブコウジ(十両)の実とよく似ていますが、2つの花の跡が実に残っています。ちなみにツルアリドオシを1両と呼ぶそうです。縁起がいいので、コケ玉にしてみてもいいかもしれませんか？



ヤマコウバシ (クスノキ科)

葉を揉むと芳香があるためこの名がついたようです。別名「モチギ」は、葉を乾燥させて粉にしたものを、餅に混ぜて団子にして食べた事に由来するようです。枯葉が冬でも落葉せずに枝に残るので、冬に比較的に見つけやすい木です。



キッコウハグマ (マキ科)

葉っぱの形が五角形状で「亀の甲羅」に見立てて「キッコウ」です。ハグマは「白熊」で仏具の「ほっす (払子)」に使われるヤク (動物) の尾の毛のことです。多くの花がとても細くて多いので、それを「払子」に例えたものです。



ヤマノイモ (ムカゴ)

ムカゴはつるにくっついてはいるけれど、実や種ではありません。茎の一部が丸く太ってできたものです。でも、ムカゴは地面に落ちたら春に新しい芽がでます。これは土の中にある芋ができるのと同じ仕組みです。ムカゴは炊き込みご飯にするとヤマノイモ独特の風味とホクホクした感触が楽しめます。



ハゼノキ (ウルシ科)

かぶれる木の代表的なのがこの木です。樹液に含まれるウルシオールなどの成分に反応して赤いブツブツが出てきます。葉をちぎったり枝を折ったりしないように注意しましょう。ハゼの実の皮から木ロウができるのは良く知られていますが、ポマードがつかれるのはご存知でしょうか？